

Olympic
Movement

<平成28年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

兵庫県 神戸市立飛松中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成28年4月～平成29年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 40校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間（50分）



2時限目
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります。



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成29年3月21日 (火)
- 場 所 : 神戸市立飛松中学校
- ク ラ ス : 2年1組、2組 (各36名)
- オリンピアン : 阪本 章史 先生 (自転車・BMX)

■授業のながれ: 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・自転車で乗って阪本先生が登場し、簡単に自己紹介をした後、今日の授業ではスポーツを通して様々なことを学ぼうと伝える。BMX競技を見たことのある生徒がいなかったため、仰向けに寝ている先生の上を自転車で飛び越えるデモンストレーションを実施した後、準備体操と鬼ごっこを実施。

3. 主運動



・3チームに分かれて8の字跳びを実施。引っかけなくても続きから数えることとし、90秒間で跳べた回数を競う。各回終了後、回数を発表し、記録を更新するために作戦タイムを1分間設け、全3回実施。最後にクラス全員で大縄跳びに挑戦。

4. まとめ



・全員跳びはクリアできなかったけれど、練習から本番にかけて少しずつ跳べるようになっていった。初めてのことに挑戦する時は失敗しても仕方ないので恐れず挑戦して、失敗したことを次に活かせば、いつか必ず成功する。大縄跳びに限らず、私生活でも実践できるよう覚えてほしいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・阪本先生が出場しているレース映像等を見せながら、競技について説明（国内コースでは時速50km、オリンピックのコースでは時速60km以上出ること、レース時間は約35～40秒程であること、北京大会からオリンピック正式種目として採用されたこと等）。
- ・アメリカでプロ選手になるという夢を叶えるまでに阪本先生が感じたオリンピックバリューについて説明し、バリューは皆の普段の生活の中にも当てはまると伝える。

3. グループワーク



- ・普段の生活の中で感じるオリンピックバリューを考えようと発問し、班ごとに机を合わせた後、司会者、書記、発表者を決めて話し合う。
- ・練習でもベストを尽くす、目標を立てて努力する(エクセレンス)、仲間を大切にする、仲間をフォローする、つらい時に助け合う、協力する(フレンドシップ)、先生や両親や友人に感謝する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックに出ている人だけのものではなく、皆の普段の生活の中にも当てはまることが多いので、これからもバリューを意識しながら成長してほしいと伝える。
- ・東京2020大会開催時には、海外から来てくれた観光客をサポートすることや、選手として大会に出場すること、ボランティアとして参加すること、試合を観戦すること等を通してオリンピックに携わってほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成29年3月21日 (火)
- 場 所 : 神戸市立飛松中学校
- ク ラ ス : 2年3組 (37名)
- オリンピック : 長谷 等 先生 (ボート)
- 授業のながれ : 運動の時間 (5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・長谷先生から自己紹介をした後、運動の時間では鬼ごっこ8の字跳びに取り組んでもらうが、一生懸命がんばること（エクセレンス）、仲間を大切にする
こと（フレンドシップ）、ルールを守ること（リスペクト）の3つを約束し、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・3チームに分かれて8の字跳びを実施。引っかかってしまったら0から数えなおすこととして、90秒間で最も多く跳べた回数を各回終了後に報告、記録を更新するために作戦タイムを1分間設ける。全チームが回数を伸ばし、工夫した点として掛け声をかけた、縄を短く持った等の意見が発表された。

・クラス全員で大縄跳びに挑戦。途中作戦タイムを設け、最後の挑戦で1回跳ぶことができた。

4. まとめ



・運動の時間で取り組んだことを次の座学の時間で考えるので、忘れずに教室に戻るよう伝え、授業終了。



■授業のながれ：座学の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・長谷先生から改めて自己紹介した後、2002年世界選手権の映像を見せながらボート競技や、長谷先生にとってのオリンピックバリューについて説明。

3. グループワーク



- ・運動の時間に実践できていたオリンピックバリューを考える。運動の時間に皆で話し合ったこと、協力したことを自分のオリンピックバリューに落としこんで話し合ってみよう伝える。
- ・諦めずに努力した、様々なやり方に挑戦した、一生懸命全力を尽くした(エクセレンス)、力を合わせてがんばった、苦手な人を助けた、失敗した人を責めない(フレンドシップ)、他のチームを見て工夫したところを学んだ、仲間への思いやり・感謝の気持ち(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・これからもオリンピックバリューを思い出して、今後の人生でも仲間を大切に、周囲に思いやりを持って、努力しながら生活してほしいと伝える。
- ・2020年に東京でオリンピックが開催されるが、自分が選手として出場するだけでなく、サポートスタッフがいてこそ競技大会が成り立っている。ボランティアや通訳等何らかの形でオリンピックに参加してほしいと伝え、授業を終了。



- 期 日 : 平成29年3月22日 (水)
- 場 所 : 神戸市立飛松中学校
- ク ラ ス : 2年4組 (36名)
- オリンピアン : 橋 雅子 先生 (水泳・シンクロナイズドスイミング)

■授業のながれ: 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・橋先生から、3つのオリンピックバリューについて簡単に説明し、運動の時間でも意識して取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・3チームに分かれて8の字跳び(90秒×3回)を実施。引っかかっても続きから数えることとし、各回終了後、跳べた回数を発表。60秒間の作戦タイムを設けて記録を更新するための作戦を各チームで話し合う。

・全員で大縄跳びに挑戦。挑戦回数を5回とし、途中作戦タイムを設け、4回目に1回跳ぶことができた。

4. まとめ



・8の字跳びや大縄跳びに、全員で協力しながら、声を掛け合い、フォローしあって取り組んでいたことも3つのオリンピックバリューに当てはまることを伝え、次の座学の時間では橋先生の経験も踏まえ、さらにオリンピックについて説明をすると話し、運動の時間を終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・2007年世界選手権大会時のフリーコンビネーションの映像を見せながら競技について紹介。
- ・小学1年生で競技を始めてから順調だった競技生活や、身長減点制度によって初めて味わった挫折、そこから再び日本代表を目指すまでの過程、北京大会でメダルをとれなかった悔しさと応援してくれた人への心からの感謝の気持ち等、橋先生が競技人生で感じたオリンピックバリューについて紹介。

3. グループワーク



- (1)運動の時間で感じたオリンピックバリューについて考える。(2)自分がこれから実践できるオリンピックバリューを考える。
- ・全員跳びに挑戦し跳ぶことができた、全力を尽くし限界まで挑戦する(エクセレンス)、全員で一つのことを共有できた、お互いフォローして励ましあった、友達を大切にする(フレンドシップ)、クラスメイトや先生に感謝して学校生活を送る、支えてくれる人に感謝する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・これから先につらいことがあった時に今日の授業を思い出してほしい。皆にはこれからたくさんの可能性があるの、新しいことに挑戦してほしいと伝える。
- ・今日オリンピックに会ったことをきっかけに、東京2020大会を身近に感じて、選手として出場する、ボランティアとして参加する、テレビで応援する等様々な形でオリンピック携わってほしいと伝える。今日皆に出会えたことにも感謝していると伝え、授業終了。

■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組



■ 集 合 写 真

2年3組



2年4組





■ 記念品贈呈

■ 2年1組



■ 2年2組



■ 2年3組



■ 2年4組



■ 証明書贈呈

